

日本での先駆けとなった 保健・医療・福祉の「三位一体」

京都大原記念病院グループ 代表 児玉博行



1981年に開設した京都大原記念病院は、時代のニーズに応じ、リハビリテーションを中心にリハビリテーションクリニック、高齢者住宅施設、高齢者介護施設、自宅での生活サポートする通所・訪問サービスなど「京都大原記念病院グループ」として総合的なケアネットワークを構築し、2018年には吉田近衛町に「京都近衛リハビリテーション病院」を開設されました。児玉代表にお話を伺いました。

—— 京大病院の真前にリハビリテーション病院を作られましたね。どのような経緯だったのですか。

NTTとのコラボで、NTTの土地活用の成功モデルとなりました。今後もういったコラボレーションの可能性があると考えています。京大病院とも友好関係を築いており、「官民協調」の典型だと言えます。最近「官が民を圧迫する」例が多い中で、これから地域医療構想を進めていく上で、理想的なモデルケースになっていくと思います。官の役割、民の役割が明確なので、患者さんも助かります。国が急性期病床が多過ぎると言い、トラブルも起きていますが、今後ある程度淘汰されていくでしょう。しかしリハビリテーションは民の役割で、官は急性期や政策医療を担っていくわけですから、その辺りを上手にコラボレーションして官民連携を進めていけば、官も民も助かります。官民の役割分担と機能をはっきりさせるというモデルができるということだと思います。今回の病院は、京大病院の目の前の近衛町という一等地でしたから、非常に良かったと思っています。院長は京大から来てもらいました。大学病院や、急性期病院等との円滑な連携のもと質の高いリハビリテーションを提供し、さらに患者さんの社会復帰に貢献していきたいと思っています。

東京にも発信していきたい 京都のブランド力

京都府の人口が250万人、京都市が150万人くらいですが、京都はカルチャーを活かすことができず、今、高齢者は東京に集中しています。満杯と言ってもいいでしょう。私もほとんど東京で発生します。関西で大学を卒業した人も3分の1くらいは東京に行くそうです。東京にお金と人口が集中しています。しかし高齢者の中には京都で過ごしたいと考える人も出てくるかもしれません。東京からは2時間強で来られますし、京都は特に女性に人気です。最終的には医療そのものよりも、有料老人ホームやレジデンスなどが必要になってきます。在宅と言っても自宅で過ごすのは厳しい面もありますから、自宅を処分して有料老人ホームに移る人も増えてくるでしょう。その時の選択肢として東京から京都に来ることは可能性があると思っています。京都の特色を活かした新しい試みができるのではないかと思います。これからの医療は、ブランド力のような付加価値も必要です。

楽しみながらできる リハビリテーション

当グループではグリーン・ファーム・リハビリテーション®に取り組んでいます。京都大原記念病院グループと京都府立医科大学とタキイ種苗株式会社との産官学連携プログラムで、京都大原記念病院敷地内にある約2,000㎡の自家菜園を拠点として、農業とリハビリテーションを融合させた取り組みです。リハビリテーション専門病院が、なぜ農業とコラボして畑を通してのリハビリテーション、屋外で畑を通してのリハビリテーションは、農作物の収穫作業という目で見てわかる明確な目標があるので、患者さんはやる気ができます。そして収穫した物を自分たちで調理して食べるという地産地消にもつながります。周囲に農地が多い大原だからできることです。(※グリーン・ファーム・リハビリテーション®は医療法人社団法人の商標登録)

京都大原 多世代交流拠点 大原健幸の郷とは？

2020年3月に、「大原健幸の郷」がオープンします。子どもからお年寄りまでが共に支え合い、多様な価値観が共存する環境の下で、誰もが生きがいを持ちながら、健康でいきいきと暮らし続けることができる多世代交流型のまちづくり拠点です。2016年12月、京都府、及び内閣府が掲げる「誰もが生涯にわたり、共に安心していきいきと暮らせる、共生社会を実現するため、高齢者共生型まちづくり事業」の事業者公募を経て、京都大原記念病院グループ、社会福祉法人行風会が事業者者に採択されました。以降、京都府、京都市、大原地域の関係諸団体等との協議を重ね、多くのご協力を得て、2019年3月に運営を開始することになったものです。

「大原健幸の郷」の目的は、誰もが生涯にわたり共に安心して生き生きと暮らせる「共生社会」を創出することです。自分が望む方法で社会と関わりながら生き続けることができる社会こそ「生涯現役社会」です。その基本は一人ひとりの「体」と「心」の健康です。体の健康は「医療」、そして心の健康は「つながり」がもたらします。「大原健幸の郷」は、京都大原記念病院グループが培ってきたリハビリ

テーション医療に基づく健康増進プログラムを子供からシニア世代にまで幅広く提供します。これからの時代は医療を中心にした安心、信頼を核としたまちづくりが望まれていると思います。

京都大原から広がる 安心・満足のネットワーク

医療も一つのサービス業ですから、どうやってビジネスモデルと付加価値を構築していくかということが当グループの使命です。そのためには人材育成、職員が大事です。当グループに来られたら、京都市内の連携病院を紹介するコンシェルジュ機能も持っています。付加価値は高いと思います。この辺りが市街化調整区域で住宅を建てるのができず、人口を増やすことができないという実情はありますが、病院を核としたコミュニティを作りたいと思っています。

早くから「医療・介護・福祉」三位一体のサービスを提供してきた先駆けとして、私たちは時代の要請に応じ、リハビリテーション病院を中心にリハビリテーションクリニック、高齢者住宅施設、高齢者介護施設、自宅での生活をサポートする通所・訪問サービス、人材や情報の提供まで、総合的なケアネットワークを構築しています。



京都近衛リハビリテーション病院



- ◆児玉 博行 プロフィール
- 和歌山県出身
- 京都府立医科大学第一外科卒
- 京都大原記念病院グループ代表
- 医療法人社団法人 行風会 理事長
- 社会福祉法人 行風会 理事長
- 医学博士
- 京都府立医科大学 客員講師
- 中日友好医院 客座教授
- 老人の専門医療を考える会 幹事
- 全国訪問看護事業協会 理事
- 全国老人デイ・ケア連絡協議会 理事
- 京都府訪問看護ステーション協議会 顧問